

④ 建築行政問題研究発表会

穂積邦彦

一——研究発表会を始めた目的・動機

第一回建築行政問題研究発表会を行ったのは、昭和六十三年度で、以後毎年一回三月に研究成果を発表しており、今年度で第五回目を迎え、建築局の職員や各区建築課職員等の中に定着してきた。

発表会を始めた目的は次の三つである。

- ① 職員相互の交流・局内連帯意識の醸成
日常の仕事の中から問題を発見し、それを共同して解決策を探る姿勢の中から連帯感や職員相互の交流を図る。
- ② 職員の自己啓発
建築局の仕事も細分化している。その中で建築行政を全体として見ることは難しくなっている。日常業務とは違った面から考える場を作り、自己啓発を図る。
- ③ 研究を通して得た成果を局内の仕事に生かす。

具体的な提案改善策を受けて、日常業務に生かすという、職員参加の場を作ることが、研究発表の主たる目的である。

動機は、他局（衛生局・下水道局等）で同様な研究発表会を毎年行っており、建築局としても研究発表会をやろうという「ムード」が盛り上がったことなどである。

二——今までの経過と特徴

《第一回研究発表会テーマ》

- ① マンション型宅地開発と許可制度について（宅地第一課・建築審査課）
- ② ワンルームマンションの調査・研究（神奈川区建築課）
- ③ 区建築課における地図情報処理の検証（中区建築課・西区建築課）
- ④ 「陳情」考（旭区建築課）
- ⑤ 旧造成住宅地における土地利用の実態調査

- 一——研究発表会を始めた目的・動機
- 二——今までの経過と特徴
- 三——発表方法・制度について
- 四——職場・職員の反応・対応
- 五——今後の課題・問題点等

と問題点について（金沢区建築課）

- ⑥ 港北区南山田排水路跡地整備に関する研究（港北区建築課）
- ⑦ 道路ウォッチング（緑区建築課）
- ⑧ 過小宅地を考える（戸塚区建築課・泉区建築課）
- ⑨ 狭あい道路の拡幅整備事業について（企画指導課）
- ⑩ スプロール地区整備型地区計画の全国事例の調査・研究（企画指導課）
- ⑪ 斜面地開発の規制・誘導について（建築審査課）
- ⑫ 建物の老朽化診断に関する一考察（企画管理課）
- ⑬ 公共建築物の耐震評価と諸問題について（住宅・教育施設課）
- ⑭ 学校施設の電力調査について（電気設備課）
- ⑮ 公共建築の維持管理におけるコンピュータ利用（機械設備課）

- ⑩ 公共建築物の設計プロセスについて(その一)(企画管理課・庁舎施設課・宅地第一課・建築保全公社)
- ⑪ 建築保全業務について(その一)少額・小規模工事の執行方法について(建築保全公社)
 - △第二回研究発表会テーマ▽
- ⑫ 公共施設の設備管理をめぐる諸問題について(企画管理課)
- ⑬ 学校施設における生活環境の諸問題(住宅・教育施設課)
- ⑭ 建築行政からみた地域特性パートナー(保土ヶ谷区建築課)
- ⑮ 横浜市市街地環境設計制度によるまちづくり(建築審査課)
- ⑯ 在来木造工法に対する一考察(旭区建築課)
- ⑰ 鶴見線沿線の街づくり(鶴見区建築課)
- ⑱ 歴史的建造物の保存と解体の判断及び調査について(庁舎施設課)
- ⑲ 区建築課における街づくりへの参加(神奈川県歴史の道事業について)(神奈川区建築課)
- ⑳ 建物の灯・街の灯(電気設備課)
- ㉑ 港南区における一戸建を中心とした住宅地の経年変化(港南区建築課)
- ㉒ 確認申請関係事務の電算化について(建築審査課・南区建築課)
- ㉓ 街の夜(緑区建築課)
- ㉔ 市街地における道路環境の適正化について(金沢区建築課)
- ㉕ 開発紛争(宅地第二課)
- ㉖ 第三回研究発表会テーマ▽
 - ① 神奈川区景観資源マップ(神奈川区建築課)
 - ② 「大倉山さんぽみち」整備事業に関わって(港北区建築課)
 - ③ 街の研究(緑区建築課)
 - ④ 建築家「和田順頭」と横浜郵船ビルについて(宅地第二課)
 - ⑤ 横浜市開港記念会館ドーム復元事業の復元設計に関する考察について(企画管理課)
 - ⑥ 市営住宅の施策・建設の変遷(住宅・教育施設課)
 - ⑦ 日本一の木造ドーム「横浜館」の建設(庁舎施設課)
 - ⑧ 公共施設設計計画における企画への参画(庁舎施設課・電気設備課・機械設備課)
 - ⑨ 横浜市リハビリテーションセンターにおけるガスエンジンヒートポンプシステムの稼働実績について(機械設備課)
 - ⑩ 学校の視聴覚教室を考える(電気設備課)
- ㉗ 第四回研究発表会テーマ▽
 - ① 鶴見・神奈川臨海部の魅力づくり(鶴見区建築課・神奈川区建築課)
 - ② 自然とのかかわりあい(緑区建築課)
- ① 「とつか」まちづくり(戸塚区建築課)
- ② 居住分野の国際交流(住宅計画課)
- ③ 市営住宅用地取得に関する考察(住宅計画課・総務局協力)
- ④ 街づくりを考える(市営住宅建設の設計と市民参加について)(住宅計画課・緑政局建設課協力)
- ⑤ 「複合空間基盤施設整備事業」について(建築行政の新しいツール(企画指導課)
- ⑥ 神奈川区浦島・新浦島・新町地区の建築動向からみたまちづくり(企画指導課)
- ⑦ 高層建築物における防災指導の展望(建築審査課)
- ⑧ 市内建築物の防災診断(震害予測診断)について(建築審査課・泉区建築課)
- ⑨ 建築家「雪野元吉」と横浜海岸教会について(宅地第二課)
- ⑩ 委託契約事務OA化の実例(報告)(企画管理課)
- ⑪ 材料業者等指定制度の改善について(企画管理課・電気設備課)
- ⑫ 学校施設における生涯学習のあり方について(住宅・教育施設課)
- ⑬ 中央卸売市場本場(青果棟)の設備事業について(庁舎施設課)
- ⑭ 市街地に設置する畜場の公害防止について

(機械設備課)

《第五回研究発表会テーマ》

- ① 生活と照明(電気設備課)
- ② パソコンによる確認申請等の地図プロットの検討(旭区建築課)
- ③ 横浜大地震来襲！超高層建築物は安全か(建築審査課)
- ④ 市営住宅の結露によるカビの発生状況調査(住宅管理課)
- ⑤ 熱傷治療用高温多湿型バイオクリーン病室設備システムについて(機械設備課)
- ⑥ 公共施設の複合化について(企画管理課)
- ⑦ 斜面緑地の保全と計画的宅地開発のあり方(宅地企画課)
- ⑧ 今日の野外活動施設のあり方(住宅・教育施設課)
- ⑨ 市営十日市場住宅建替事業の基本構想とまちづくりの視点について(住宅事業課)
- ⑩ 公共建築物の雨水利用について(企画管理課・住宅・教育施設課・庁舎施設課・電気設備課・機械設備課)
- ⑪ 耐火建築物とは？耐火建築物も燃える？(建築審査課)
- ⑫ タウンスクエア設備基本構想(港南区建築課・同区政推進課)
- ⑬ 工業地域を中心とした環境整備手法の検討

について(栄区建築課)

- ⑭ 高齢化社会に関する一般的考察(住宅事業課)
 - ⑮ 建築家「福田重義」について(港北区建築課)
 - ⑯ 行政道路(泉区建築課)
- 第一回の発表テーマは十七件と多数の参加者により、発表会を行うことができた。研究テーマは第一回ということもあり、各職場の仕事に関係するもの、
- 《例として》
- ① マンション型宅地開発と許可制度
 - ② ワンルームマンションの調査・研究
 - ③ 公共建築物の耐震評価と諸問題
 - ④ 建築保全業務について
- 等のテーマが多かった。
- 二回目以降の発表テーマも、十件から十六件あり、局内での研究発表会が職員の中に定着してきている。また、発表テーマも仕事に直接関係あるテーマから、回を重ねる毎に変化している。
- 《例として》
- ① 鶴見・神奈川臨海部の魅力づくり
 - ② 「とつか」まちづくり
 - ③ 街づくりを考える／市営住宅建設の設計と市民参加について

④ タウンスクエア整備基本構想

等々の「まちづくり」的な研究発表のテーマが多くなってきている。また、研究発表会は、建築局内(各区建築課を含む)職員が、個人・課単位・グループでの研究であったが、区建築課と区政推進課が共同で「まちづくり」をテーマにした、研究発表も行われるようになってきた。

区建築課の職員は、区役所に所属し、区民と接する機会も多く身近な問題として「まちづくり」行政を「区」としてどうあるべきか、日常からいろいろな問題点についても改善していくとする意識が現れている。

三——発表方法・制度について

研究発表は、個人・課単位・グループ等自由である。また、「テーマ」についても建築に関係なく日常研究していること等、行政に関係する物であれば自由に発表することができる。

発表会は、毎年三月下旬に行われている。そのため、発表テーマを十月頃までに設定し、梗概集を作成する関係で、成果品を一月下旬頃までに、事務局に提出する。

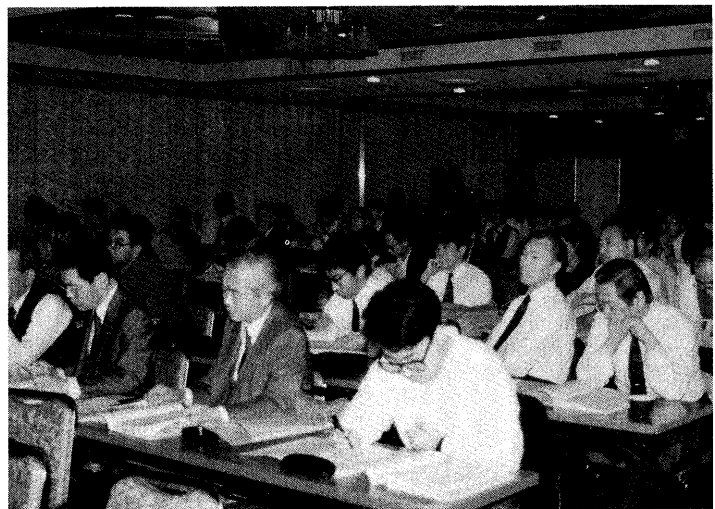
発表方法は、毎年十六件前後のテーマがあるため、午後二回に分けて行っている。一件当た



りの発表時間は、約十五分から二十分で行い、質疑時間を五分程度としている。

また、どのような発表を行うかは自由である。発表者は短い時間の中で、研究の成果を要領よく、聞き手に分かりやすくかつ面白くするために、OHP・スライド及びビデオ等を取り入れ、それぞれ工夫しながら発表している。

質疑も簡潔に行うなど、回を重ねる毎に上手になってきた。発表終了後、建築局長・各部長



より、発表会に対する講評も行われている。事務局については、部単位で毎年持ち回ることになっている。

四——職場・職員の反応・対応

建築局の職員は、いずれも日常の仕事に追われて忙しい職場である。特に、許認可の仕事を取っている職場は、午前中設計者等の対応、午

後は現場調査及び検査等で時間を作るのに苦慮しているのが実態である。

そこで、課単位あるいはグループ内で、行政問題研究発表会において、何を発表するか、「テーマ」作りが難しい。グループの中で、個人的に日常から関心をもっていること、研究を行っていること等について、意見を出し合って「テーマ」を設定するケースが多い。

《職員の反応》

- ① 業務に直接関係ある内容について、研究発表する場合は、業務について改めて考えたり、勉強をし直すよい機会になる。
- ② 業務に直接関係のない内容の場合は、自己啓発のよい機会になる。
- ③ 期限内に、成果品が出来上がったときの喜びが何とも言えない。また、グループ内の親密さが増した。
- ④ 成果品を局長・部長等大勢の前で発表するため、緊張するが、非常に勉強になる。
- ⑤ 毎年、発表会に参加しているため、年中行事化している。
- ⑥ 作業時間になると、残業や現場調査等の日常業務を支援しないよう調整するなどの、協力的な制ができてきた。
- ⑦ 日常業務の中に、改善すべき点がないか、常に注意しながら仕事を行うようになった。ま

た、期限内に成果品をまとめるため、大変苦勞するが、毎年続けてほしいとの多数の意見であった。

五——今後の課題・問題点等

① 今後の発表会の中に、「設計コンペ」のように、全員でプラン・作図・発表を行う課題を組

み入れたらよいと思われる。

② 論文発表だけではマンネリ化してしまう。

人前で発表することも重要であるが、研究の内容の評価を客観的に行うべきである。

客観的に評価を行うことは、研究の締めくくりの意味で、発表者、参加者すべての人に対して重要なことと思う。

③ 現在の建築局長等、管理職が評価員である

ことは、発表者が仕事の領域をこえられず、自由な発表を阻害していることになる。

今後の課題として、他局の管理職や職員の中から、評価委員を選出できるようにすれば、この研究発表会の発展になるものと考えられる。

△建築局建築指導部企画指導課指導係長▽